

アルジェリア政治・経済月例報告
(2018年11月)

平成30年12月
在アルジェリア日本国大使館

1 内政

- 1日、ブーテフリカ大統領は革命記念日に際し、殉教者碑に献花のためアリア墓地を訪問。
- 14日、公式筋によるとウルド・アッベス FLN 事務総長は、長期の病気休暇を取らざるを得ない健康上の理由により、同事務総長職を辞任する決定を行ったと政府系紙が報道。同氏は辞任あるいは解任の事実はないと否定するも、事務総長職は空席となった。
- 15日、国民議会は2019年予算法を承認した。
- 20日、国民評議会経済・財政委員会は、ラウイア財相出席の下、2019年予算法を審議した。
- 21日、ハッサーン・カーシミー移民対処センター長（内務省所管）は、アルジェにて3日間開催された「移民の危機に対処するためのアフリカの関与」を主題とするセミナー最終日に、「移民に特化した施設を北アフリカ諸国に構築するとのEU提案を拒否し、アルジェリアは包括的解決に係る提言を示した」旨述べた。
- 24日付報道によるとウーヤヒヤ首相は、国境地帯には開発や生活レベル向上に係る特別な関心が公的機関から寄せられて然るべき旨、国民議会における質疑応答にて述べた。

2 外交

- 12日、モゲリーニ EU 外務・安全保障政策上級代表は、メサヘル外相と第2回アルジェリア・EU 地域安全保障・テロ対策ハイレベル対話を行うため来訪。
- 13日、ベンサラ国民評議会議長は、来訪したボンダレフ(Viktor Bondarev)露連邦院国防・安全保障委員会委員長一行と会談。ブシャーレブ国民議会議長との会談後、ボンダレフ委員長は、「シリアにおける空・宇宙軍の介入は、シリアの多様な機関を保持し、国際的テロ組織に甚大な損害を与えることにつながった」と述べた。同委員長はメサヘル外相、ベドゥイ内相とも会談。
- 13日、ウーヤヒヤ首相はメサヘル外相とともにパレルモを訪問し、リビア近隣国会合に引き続き、リビアに関する国際会議に出席した。
- 17日、ウーヤヒヤ首相はアディスアベバにて開催された第11回AU臨時総会に出席し、メンバー国分担金の公正な分配を含むAU改革等について演説。

エジプトのマドブリー首相及び南アフリカのラマポーザ大統領とそれぞれ会談。

●19日、常設NATO海上部隊のSNMG-2 (Standing NATO Maritime Group 2) がアルジェ港に接岸した。当該部隊は19日から4日間停泊。SNMG-2は蘭ミサイル駆逐艦「HNLMS DE RUYTER」、西ミサイル駆逐艦「ESPS CRISTOBAL COLON」、加ミサイルフリゲート艦「HMCS VILLES QUEBEC」、西補給艦の4隻で構成。アルジェ寄港の間、MARCOM (Allied Maritime Command) 副司令官がアルジェリア海軍司令官を表敬し、アルジェリア海軍と通信訓練等を行った。

●24日から26日、ガラマラ・イスラム最高評議会議長(元宗教・ワクフ相)は、テヘランにて「イスラム諸派の歩み寄りのための世界団体」が主催し、「エルサレムはウンマ(イスラム共同体)の一体性の鍵」を主題とする第32回イスラム一体性(統一)会議に参加し、演説した。

3 治安

●6日付報道によると11月初旬、スキクダ港税関はマルセイユ発カーフェリーの女性乗客から342,000ユーロを押収したと発表した。挙動不審を見て身体を検査し発覚し、車両内ではなく身体の数箇所に隠し持っていた。被疑者はスキクダ出身の仏在住者であった。

●8日、スキクダ県西部コロ山岳内にてテロリスト1人が家族同伴(11人)で軍当局に投降し、軍当局に保護された。家族の内訳は女性3人と子供8人である。投降時に所持していたカラシニコフ自動銃1丁、装填された弾筒3個及び携帯電話機6機を軍当局が押収した。

●13日、アルジェ市内サンク・ジュイエ競技場でアルジェ県チームとシディ・ベラベス県チームの試合後、負けたアルジェ県チーム応援団の若者多数が暴力行為に走り、その結果、制止にあたった警察官18名負傷(うち4名重態)、警察車両10台と救急車1台を破壊された。また暴徒は競技場周辺でも暴力行為を重ね、応援団側にも若者22人の負傷がでた。警察は暴力・蛮行の犯人として22人及び刃物と麻薬・薬物の所持者20人を逮捕した。

●19日付報道によるとアルジェ県諸地区でサヘル移民の子供に物乞いを強制していた人身売買グループを摘発し、子供93名を救出した旨アルジェ県庁が発表した。一部は本国送還のためタマンラセットへ移送され、他は社会支援センターに保護された。93名のうち60名以上がニジェール国籍であった。内務省のカシミ移民問題担当は、サヘル人搾取は深刻な問題であり、子供が物乞いで得た金銭は麻薬や武器の密売網、人身売買グループ、さらにはサヘル地域のテログループの資金源となっている旨記者会見で述べた。

4 経済

- 10月31日に発表された世界銀行の”Doing Business 2019”の総合順位において、アルジェリアは昨年より9つ順位を上げ190か国・地域中157位にランクされ、1日付各紙が報道。「破綻処理」の項目が第76位と比較的好評価を受けた一方で、「資金調達」(178位)、「貿易」(173位)、「少数投資者の保護」(168位)及び「起業のしやすさ」(150位)等の項目が低い順位となった。
- 5日、ソナトラック社は、ハッシ・メサウド近郊のズシナ工業コンビナートにおける4番目の液化天然ガス生産施設の建設に関し、競争入札の結果、イメイレ・テクニモン社を受注が決定したと発表。受注額は2億8450万ドル。
- 7日、セヴィタル・グループは仏アルデンヌ県に、建設した超純水生産、海水淡水化及び工業用水処理の3つの工場を開設。レブラル同グループ会長とともにマクロン仏大統領も視察に訪れた。
- 8日、アヤディ外務次官と楊当地中国大使は、中国政府から当国に対し経済・技術協力の枠組で2500万ユーロの無償援助を行う旨の協定に署名した。同援助は両国の間で今後合意される諸プロジェクトの資金に充てられる。
- 10日、ゼマリー労働・雇用・社会保障相は2018年4月時点での当国の失業率が11.1%で、2017年9月の11.7%から6か月で0.6%下がったことを表明し、政府による雇用対策が効果を上げている旨述べた。
- 13日、国際通貨基金(IMF)は2018年のアルジェリアの名目GDPを1883億ドルとする最新の予測を発表。実質GDPの年間成長率については前回発表の予測を維持し、2018年を2.5%、2019年を2.7%とした。
- 20日、アルジェで第3回アルジェリア・EUハイレベルエネルギー政策対話が開催され、ギトゥーニ・エネルギー相及びカニエテ気候変動・エネルギー担当欧州委員が出席。ギトゥーニ・エネルギー相は、アルジェリアがスペインと従来と同量のガス供給の契約を更新し、他国とも契約交渉中である旨表明したうえで、2018年～2022年にかけて炭化水素部門をはじめとして750億ドルの投資を行う計画であると発言。
- 24日、ウルド・カドゥール・ソナトラック社総裁は、原油価格について今後数年間70～80ドル/バレルで安定することが、産油国及びアルジェリアにとって適正であるとした上で、60～70ドル/バレルで推移している現在の原油価格では、産油国の将来の計画を困難にすると発言。
- 25日、関税庁は、2018年1月～10月の貿易赤字が41億1000万ドルで、昨年同期比で59%削減されたと発表。輸出が昨年同期比20.6%増の341億2600万ドル、輸入は同0.35%減の382億4000万ドル。なお、炭化水素が輸出高の93.17%を占めた。

- 26日、ウーヤヒヤ首相は、テベッサ県でソナトラック社と中国の中信集団（CITIC）との間のリン加工業及び天然ガス開発の巨大プロジェクトに係る協定の署名式を主催。同プロジェクトの投資規模は60億ドルで、リンの採掘量は将来的に年1000万トンに達する予定。リン加工製品の生産は2022年から開始され、約20億ドルの外貨収入をもたらすものと見込まれている。
- 28日、ソナトラック社は、トルコのルネサンスグループとトルコにおいて石油化学コンビナートを建設するための株主間契約に署名。投資規模は約12億ドルで、年45万トンのポリプロピレンを生産する計画。
- 28日、国民評議会は、2019年予算案を賛成多数で可決（国民議会では15日に可決済み）。歳入は6兆5080億ディナールを見込み、歳出は8兆5570億ディナールで、昨年に引き続き2兆ディナール強の赤字予算。なお、同法案は、原油価格：50ドル／バレル、年間経済成長率：2.6%、年平均インフレ率：4.5%といったマクロ経済指標の予測を前提として策定された。

5 日本との関係

- 3日、平成30年秋の叙勲に際し、ゼルーニ元副首相への旭日大綬章の受章が発令された。
- 5日～8日、ユースフィー産業・鉱業相が日本を訪問し、世耕経済産業大臣、山田外務大臣政務官、滝波経済産業大臣政務官、越川 JICA 副理事長、平野 JETRO 理事と会談するとともに、日アルジェリア友好議連と交流。また、丸紅、スズキ、トヨタ及び日産の代表者とも面談を行った。さらに、トヨタの工場視察やJETRO 主催のアルジェリア経済セミナーに出席する等した。
- 10日、小川大使は、アルジェのオリンピック・スポーツ博物館で開催された1964年東京五輪回顧記念セレモニーに出席。同セレモニーにはヤマニ博物館長（東京五輪に出場した元アルジェリア代表体操選手）、ベラフ・アルジェリア・オリンピック委員会委員長等が出席した。
- 19日、小川大使は、ハダッド・アルジェリア経営者フォーラム（FCE）会長と会談し、日・アルジェリア間の経済関係強化に関し意見交換を行った。
- 26日、小川大使は、ゼマリー労働・雇用・社会保障相を表敬し、日・アルジェリア間の経済関係や昨今のアルジェリアの労働・社会保障政策等について意見交換を行った。同会談については各紙が報道した。

<アルジェリア要人の外国訪問>

<アルジェリア要人の外国訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
11月5日～	日本	ユースフィー産業・	世耕経済産業大臣、山田外務大臣

8日		鉱業相	政務官, 滝波経済産業大臣政務官, 越川JICA副理事長, 平野JETRO理事と会談。日アルジェリア友好議連と会食。丸紅, スズキ, トヨタ及び日産の代表者と面談。トヨタ工場視察。JETRO 主催のアルジェリア経済セミナーに出席
11月6日~8日	カタール	ジェラブ商業相	ホスピタリティ&フード国際見本市を視察。カタール投資庁の幹部らと面談
11月11日	フランス	ウーヤヒヤ首相	ブーテフリカ大統領の代理として, 第一次世界大戦休戦100周年記念式典及び第1回パリ平和フォーラムに出席
11月11日	フランス	メサヘル外相	ウーヤヒヤ首相に同行し上記式典及びフォーラムに出席
11月13日	イタリア	ウーヤヒヤ首相	ブーテフリカ大統領の代理として, リビアに関するパレルモ国際会議に出席
11月13日	イタリア	メサヘル外相	ウーヤヒヤ首相に同行し上記会議に出席
11月13日~14日	トリニダード・トバゴ	ギトウーニ・エネルギー相	第20回ガス輸出国フォーラム閣僚会合に出席
11月14日	エジプト	ゼルアティ環境・再生可能エネルギー相	第14回生物多様性条約締約国会議の枠組で開催されたアフリカ諸国担当大臣会合に出席
11月17日	エチオピア	ウーヤヒヤ首相	第11回AU臨時総会に出席
11月21日	スーダン	ルー法務・国璽相	第34回アラブ諸国法務相評議会に出席
11月22日	スペイン	ギトウーニ・エネルギー相	第6回ガス担当相フォーラムに出席
11月26日~28日	ケニヤ	ベンメサウード観光・手工業相	「持続可能なブルーエコノミー会議」に出席
11月30日	ロシア	ブジート情報・対外安全総局長	パトルシェフ露安全保障会議書記と会談

<外国要人のアルジェリア訪問>

日付	国	氏名・肩書き	目的
11月5日	イタリア	コンテ首相	ウーヤヒヤ首相と会談(メサヘル外相及びギトゥーニ・エネルギー相同席)
11月7日	アンゴラ	ドス・サントス元兵士・退役軍人相	ジトゥニ・ムジャヒディン相と会談。ムジャヒディン・元兵士・退役軍人の社会的保護及び歴史的記憶の保存に関する協定に署名
11月12日	EU	モゲリーニ EU 外務・安全保障政策上級代表	第2回アルジェリア・EU 地域安全保障・テロ対策ハイレベル対話の枠組で来訪。メサヘル外相と会談。ウーヤヒヤ首相を表敬
11月12日～13日	ドイツ	ロート独連邦議会副議長	ベンサラ国民評議会議長及びブシャーレブ国民議会議長と会談
11月13日～14日	ロシア	ボンダレフ露連邦議会連邦院国防委員会委員長	ベンサラ国民評議会議長, ブシャーレブ国民議会議長, メサヘル外相及びベドゥイ内務・地方自治・国土整備相を表敬
11月17日～19日	中国	金・アジアインフラ投資銀行総裁	ラウイア財務相, ザアラーン公共事業・運輸相及びネシブ水資源相と会談
11月18日	フランス	ル・メール経済・財務相	第3回「投資と財政に関する5+5か国対話」の枠組で来訪
11月20日	ニジェール	カディ設備相	ザアラーン公共事業・運輸相と会談
11月20日～22日	インドネシア	ルキタ商業相	ジェラブ商業相及びユースフィー産業・鉱業相と会談
11月27日	カナダ	ドレイク外務省対テロ・組織犯罪対策特別顧問	グローバル・テロ対策フォーラム(GCTF)の西アフリカ諸国の能力強化に係る会合をメサヘル外相と共催
11月29日	米国	ヘイル政務担当国務次官	ウーヤヒヤ首相及びメサヘル外相を表敬